



New Wind

西宮の未来をつくる。

前 西宮市議会議員(6期22年)

田中まさたけ

市政・市議会報告



最終回 ー市政を刷新するー

22年前は「市議会報告チラシ」を配る議員は少なく、市議会の活動状況が見えづらい状況にありました。

「政治を活性化するため、選挙の前だけではなく常に変化する市政の現状の報告をします。」

この約束を守り発行し続けてきた市議会報告は今回で77号。最終回となります。

今、「何もしない」ことは最大のリスクであり、私たちの生活、まちを守るために早く手を打たなければなりません。

未来に誇れる西宮をつくる。

その一心で令和7年10月、市議会議員を辞職し、行動を起こしました。

掲載内容 ●投票率と政治の活性化 ●ふるさと納税の流出超過対策 ●西宮市の成長に向けた重点戦略
●議員活動22年の総括(抜粋) ●民間活用による市民サービスの向上

リーダーが変われば政治が変わる。そして、政策が変わり、生活が変わる。
国や県との連携を強化し、西宮をさらに住みやすいまちへと成長を目指す。

2月8日に行われた衆議院議員総選挙の西宮市での投票率は、第1開票区(南部地域)で60.17%、第2開票区(塩瀬・山口地域)で57.06%となり、全国の投票率56%を上回る結果となりました。

一方、地方政治においては、4年前の西宮市長選挙の投票率は41.28%、3年前の西宮市議会議員選挙の投票率は37.96%と大変低い状況が続いています。

会社員の家庭で育った私は、22年前、**政治がおろそかにされる社会に、衰退はあったとしても発展は望めない**と考え、27歳の時に市議会議員に挑戦しました。そして、このチラシを通じて、市の実情を発信してまいりました。

地方分権が進められてから25年、西宮市に山積する課題の多くを先送りしてきた結果、少子化の加速、人口減少、財政悪化、市民生活の安全に関わるインフラの老朽化の加速、産業空洞化等々、**衰退という形で影響が表れ始めています。**

今こそ、国や県との連携を強化して衰退を食い止め、西宮の実情に応じた政策を遂行することで、文教住宅都市として築かれた西宮の潜在力を引き出し、さらに成長へと方向性を変えなければならないと考えています。

●NEW WIND 西宮に新しい風を。 豊かな西宮の未来をつくるために。

西宮の未来をつくるのは、今の大人の責任です。市職労など一部の組織のための政治ではなく、真に市民のための政治を取り戻し、財政を立て直す必要があります。そして、子供たちに誇れる西宮を残すために皆様とともに行動してまいります。



衆議院選挙個人演説会場にて

市民が動けば、政治も変わる。「市民のための政治」を取り戻しましょう。



政策提言

令和7年9月議会、最後の市議会一般質問では、①少子化対策（保育所待機児童対策、幼児教育・保育のあり方、小学生の居場所づくり）、②地域経済の活性化と都市ブランドの発信（スポーツを核としたまちの活性化、地方創生）、③地域コミュニティの醸成（自治会等地域活動のデジタル化による負担軽減）について取り上げ、市と議論しました。

ふるさと納税の流出超過も財政悪化の大きな要因。財政の速やかな立て直しと市内経済の活性化の両立により、収入増加を図る取組みが急務です。

●ふるさと納税の流出超過対策の強化が急務

ふるさと納税の収支は悪化の一途をたどり、約32億円の流出超過となりました。これは、産業振興政策の欠如が要因の一つと考えています。現に、西宮市の「住民一人当たりの商工費」は、中核市62市中57位、全国平均の約22%、全国最高額の3%にとどまっており、**産業振興という「将来への投資」が極端に不足しているのです。**

●芸術文化・スポーツを通じたまちの活性化

高校野球開催時に、甲子園球場に全国から多くの方がお越しになることから、再整備された駅前広場を活用し、都市ブランド発信事業を強化するよう提言。現在の西宮市は非常に消極的です。

●起業家支援センターを活用し、一層の経済成長を

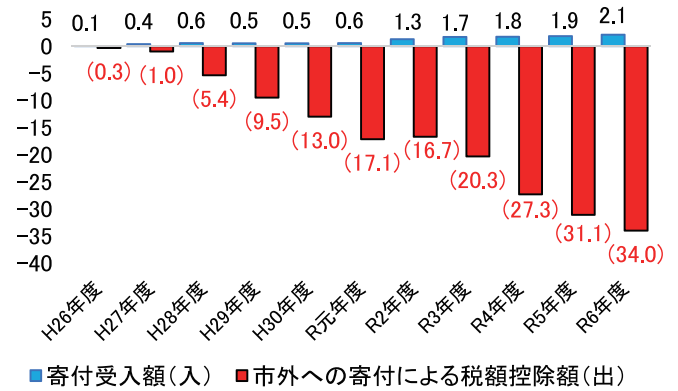
3年前に、1億円を投資して西宮商工会議所に設置した「起業家支援センター」を活用し、スタートアップ支援も視野に入れた「起業後の成長支援」の強化の必要性を指摘。**やりっぱなしの「お役所仕事」の改革が急務です。**

●道の駅の誘致で北部地域を活性化すべき

通過交通が多い西宮市こそ、防災機能を持たせた道の駅を誘致し、西宮の産品や名所の発信を強化するなど大胆な投資も必要と考えています。

産業振興の施策の実効性を高めるため、税收効果分析など証拠に基づく政策立案(EBPM)を実施するなど改革のスピードアップが必要です。

西宮市のふるさと納税の推移(単位:億円)



次世代に負の遺産を残さないために、私は本気で財政改革に取り組むべきと考えています。

22年間の経験上、**現在の市民にばかり負担を押し付ける財政構造改善計画を見直し、7年連続続いた赤字基調を直ちに解消**しなければなりません。

- 市役所のトップである市長の月額報酬3割カットから始まる総人件費改革の徹底
- 既存の市内企業の支援(人手不足対策、処遇改善、書類の簡素化など)による雇用の確保、所得増加による税財源の確保
- 民間委託とIT化による市職員の抑制と市役所サービスの利便性の向上
- 公共施設マネジメントの強化／公共施設の再配置とインフラの適正管理

は、不可欠かつ迅速に実現するべき取組みだと考えています。



市民のための政治を取り戻すため、徹底的に改革する必要があります。

将来への投資、成長を加速するために、私は本気で国や県と連携を強化すべきと考えています。

地域経済を活性化にすることは、市民の所得増、税金を自然に増やせる確実な道です。

- 市役所業務を市内企業へ委託し、地域内で仕事と給与を循環
- 公共事業の効果を地域経済に波及させ、幅広い産業を支援
- 保育士・介護職の処遇を改善し、雇用の安定と安心を両立
- 商店街の振興と空き店舗の活用で、にぎわいを再生
- 兵庫県の産業振興政策との連携、制度活用

これらにより、**西宮に雇用と活力を生み、将来世代に継承する強い財政基盤を築く政策へと転換するべき**です。



さらに成長するため、西宮の未来ビジョンを描き、市民に示すべきです。

市民との対話を通じたご意見・情報をもとに、6期22年間で提案し、行動し続けてきました。まちの未来は、市民の力でつくられます。

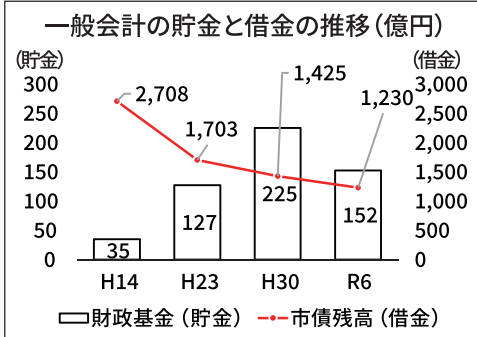
●財政改革の断行で財政破綻を回避

「子供たちの世代にツケを残さない。」私が市政に挑戦した原点です。初当選直後の平成15年6月議会一般質問で第3次行財政改善実施計画を提言し断行。平成17年度から

20年度の4年間で累積280億円の財政改善を達成。

その後の10年で財政基金(貯金)が225億円まで増加しましたが、現市政になって、再三

にわたる議会からの財政構造の改善提案を市は無視し続け、再び財政が悪化。令和6年度決算で152億円まで減少している状況です。令和8年度予算ではさらに45億円を取り崩す内容に。財政の速やかな立て直しが急務と考えています。



●西宮市議会初の政策的条例を起案

平成23年12月に「西宮市第三セクター等への関与に関する条例」を議員提案し可決。外郭団体と市の馴れ合いを排し、現在も毎年経営状況が報告されています。その結果、JR西宮駅前の「フレンテ西宮」を存続し、市による貸付金も順調に返済され、令和8年度にさらに返済額を増額できる見込み。市は

なれ合いをやめ、外郭団体の活性化を促すことが重要です。

●登下校時の防犯「ミマモルメ」導入

平成16年12月議会で、小学生の登下校時の防犯対策にICT技術の導入を提言。市は平成23年度から小学校で「ミマモルメ」という防犯システムを導入し、令和3年度から出欠連絡にも活用されています。今後、通学路の見守りボランティアの減少対策や公園への防犯カメラの設置が急務です。

●市民の安全を守るインフラの管理

平成18年6月議会で初めて「公共施設のアセットマネジメント」の導入を提案し、平成23年より始動。平成28年に「公共施設等総合管理計画」が策定されました。しかし、この計画も形骸化しつつあり、今後、公共施設の適正管理、適正配置、財源確保の取組みが急務と考えています。

●ごみステーションの適正管理

平成15年6月にゴミステーションのカラス対策を提言。平成30年度視察報告書で再度提言し、令和2年度より折り畳み式ネットボックス等購入補助制度が開始しました。今後、ゴミ出し負担の軽減に取り組む必要があると考えています。

●議員定数は24年で5名削減

初当選時の議員定数は、初当選時の平成15年は45名でしたが、6期22年間ずっと議会内で訴え続け、令和7年3月に再度条例を改正し、来年から40名になります。

西宮に活力を取り戻すため、私は本気で少子化対策に取り組むべきと考えます。

少子化に歯止めをかけるには、各自治体が地域の特性に応じて、積極的に対策を講じることが重要だと考えています。子育て支援と教育に力を入れるべき西宮市では、

- 保育所・認定こども園の待機児童の即時解消と兄弟枠の創設
- 第2子以降の子育てへの国の給付金上乗せを含めた手厚い支援
- 子供の育ちを支える幼児教育の具体化と強化するための予算化
- 「子育てひろば」の拡充により親子で安心して過ごせる居場所の整備
- 留守家庭児童育成センターの待機児童防止と放課後の居場所づくり

が、不可欠かつ迅速に実現するべき取組みだと考えます。



初当選直後から、公園の維持管理、安全対策等について取組みました。

安心して住み続けられるまちにするため、私は本気で「安心・安全」に取り組むべきと考えます。

安心して安全に暮らし続けられるまちこそが、住みたい町として選ばれる要素として不可欠であると考えています。特に、

- 市内の移動環境の改善／歩行者や自転車の交通安全対策の強化・市内公共交通の利便性の向上
- 地域活動や老人クラブへの支援強化、高齢者の活躍の場づくりなど介護予防の推進
- 道路・橋梁・上下水道の適正管理と計画修繕による災害に強いまちの実現
- 超高齢社会に対応できる医療・救急・福祉体制の強化と南北格差の是正

は、ビジョンと数値目標を掲げて計画的に実現するべき取組みだと考えています。



交通安全、渋滞対策、公共交通の利便性の向上には、国・県との連携が不可

あきらめない。市民のための政治を取り戻すために。

西宮でも少子化が加速して人口が減少していることから、子育て世代の魅力向上は喫緊の課題と考えています。

●学校給食調理業務の民間委託 給食室の有効活用によりサービスの向上を!

コロナ禍の夏休み短縮期間中、調理を民間に委託している自治体では通常どおり給食が提供され、公務員が調理している西宮市では、調理業務を放棄し簡易給食が提供されました。これは、**民間の方が柔軟に対応できる**ことを示す一例です。**調理業務を民間に委託し、土曜日や長期休暇中に給食室を活用すれば、留守家庭児童育成センターでの給食提供も可能**になります。

一事が万事、子供のことより公務員の処遇を優先する「今の市政」を変えなければ、サービスの質や生産性の向上は望めません。

| | |
|----------------------|---|
| 年間の給食提供日数 (令和5年度) | 小学校 186日 (約491万食) |
| | 中学校 180日 (約193万食) 義務教育学校188日、特別支援学校178日 |
| 調理員一人当たり人件費 (共済年金含む) | |
| 正規職員 | 880万7千円 (63名平均) |
| 非正規職員 | 375万4千円 (250名平均) |

●待機児童は即解消できます

西宮市は、11年間連続で保育所待機児童を解消せず、民間移管対象の公立保育所を守り続けました。そして、西宮市立保育所23園の運営に要する支出は、年間約49億円(令和6年度決算)となり、4年間で5億円増加しました。**市立保育所を民間に移管すると、運営費の公費**

負担分の75%を国と県が負担することになり、財源は大幅に増加します。この財源で、**保育士処遇の官民格差を是正**すれば、民間保育所の保育士不足の解消につながり、入所児童数を大幅に増やせます。つまり、無理に施設を増やさずとも待機児童の解消が図れるのです。また、人口減少による担い手不足のなか、公が民間の人手を奪うことなどあってはなりません。

西宮市は、正規職員を減らす政策には消極的。真の改革のためには、市長の強い意思が不可欠です。

市立保育所の正規保育士13名(令和2年)の採用に対して応募が108名と高倍率。一方で民間保育所では保育士不足が深刻な課題に。

| | |
|---------------------------|--|
| 市立保育所 正規保育士 (令和2年度) | 平均給与 647万円 (平均勤続年数 13.8年) |
| 民間保育所 正規保育士 (令和元年度) | 平均給与※ 516万円 (平均通算勤続年数 19.6年) |

※内閣府「幼稚園・保育所・認定こども園等の経営実態調査」より。

田中まさたけ市政市議会報告第65号より

●子供の活躍の場・居場所を守る

部活動の廃止を食い止められるのは今だけ。一度失ったものを取り戻すことは容易ではありません。真に地域展開を可能とする体制を着実に丁寧に構築することで、一層の教育環境の向上を図るべきです。

「部活動の地域展開」に関する田中まさたけの提案の詳細はこちら⇒是非ご覧ください!



約束のかたち:「市政・市議会報告」の発行、「市政報告会・意見交換会」の開催

このチラシは、活動をご報告するだけでなく、市民の声を伺うきっかけとなる「広聴」のために発行しています。掲載内容以外のことでも、ご意見・情報をぜひお寄せください。

また、市政報告兼意見交換会も、オンラインに対応しながら不定期で開催しています。

開催日程や会場などのご案内は、LINE公式アカウントからもお届けします。ご都合のよい日程でご参加いただけましたら幸いです。

発行責任者

田中正剛 たなか まさたけ

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒 元市議会議員事務所に4年間勤務した後、平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選(27歳)。6期22年の活動の後、改革をスピードアップするために市長を志し、令和7年10月に議員を辞職。

■これまでに就任した市議会での主な役職

厚生常任委員会委員長、西宮市監査委員、病院問題特別委員会委員長、阪神水道企業団監査委員、西宮市議会副議長、建設常任委員会委員長、民生常任委員会委員長、第88代西宮市議会議長(41歳)

profile



76号:活力ある文教住宅都市・西宮を取り戻す
官民の給与格差の是正と経済活性化による財政改革、待機児童が解消できないワケ、部活動の継承と学校体育施設地域開放などについて掲載。

こちらのQRコードをスマートフォンのLINEアプリで読み取って、是非ともご登録下さい。



LINE公式アカウント